

文字・活字文化

校長 大谷 慎也

「参道の 長きはたのし 七五三」(山口青頓) 旧中山道沿いの調神社前では、和装した小さな子どものほほえましい姿を見掛けるようになりました。先月は各地に被害をもたらした台風の影響により登下校や授業等について何度も心配をしました。10月12日には、本校でも避難所が開設され、担当の市職員の方々や教頭とともに夜通し対応することとなりましたが、甚大な被害に至らず、少しほっとしております。また、「さいたま市中学校新人体育大会」をはじめ、特別支援学級の「長瀬宿泊学習」、「合唱コンクール」、「さいたま市中学校駅伝競走大会」等、校内外の教育活動も実施することができました。ご支援・ご協力を賜りました数多くの保護者の皆様や地域の皆様感謝申し上げます。

さて、10月27日は、「文字・活字文化の日」でした。今月9日までの「読書週間」の初日でもあります。平成17年(2005年)7月に「文字・活字文化振興法」が制定され、その記念日にあたります。この法律は、文字・活字文化が人類の知識および知恵の継承や豊かな人間性の涵養、健全な民主主義の発達に欠くことのできないものであり、国民の間に広く文字・活字文化についての関心と理解を深めることを目的としています。近年、国民の活字離れや読書離れが進み、また、読解力や言語力が低下しているため、こうした傾向に歯止めをかけることが背景にあったとのことです。

さいたま市では、各学校に学校図書館に関わる専門的な立場にある司書教諭と学校図書館司書が置かれるとともに学校間や公共図書館との図書の貸借を可能とするネットワーク便が運行するなど、読書活動推進の動きは活発です。本校でも、朝読書の実施や昼休み等の学校図書館での本の貸し出し、授業時間での自校の図書や公共図書館の借り入れ図書の活用、生徒会の図書委員会による時季に応じた催しなど、計画的に行っています。ここで、「平成30年度さいたま市学習状況調査(対象小1～中3。平成31年1月実施。)」の読書に関する質問における結果を紹介します。まず、質問「家や図書館で、普段(月曜日から金曜日)、1日あたりどのくらいの時間、読書をしますか。(教科書や参考書、漫画や雑誌は除きます。)」について、中2では、「2時間以上」が4.7%、「1時間以上2時間未満」が8.3%、「30分以上1時間未満」が17.1%、「10分以上30分未満」が27.7%、「10分より少ない」が14.0%となり、約70%の生徒が読書に親しんでいます。しかし、28.2%が「全くしない」と回答しています。次に、「平成31年度全国・学力学習状況調査(対象小6・中3。平成31年4月実施。)」の質問「新聞を読んでいますか。」について、市の中3では、「ほぼ毎日読んでいる」・「週に1～3回読んでいる」をあわせると11.9%となっています。新聞に関しては、習慣化している生徒の割合が低い結果となっています。この傾向は、全国の結果も同様です。昭和12年(1937年)に出版、昨年漫画化されて200万部を突破した『君たちはどう生きるか』(吉野源三郎 作)を目にした人も多いかと思います。作品の中で、主人公の潤一に叔父は、言葉や読書、学問の必要性や大切さを語りながら、「人間らしい人間関係」について伝えていきます。本や新聞、文字や活字に親しむことは、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないものであると深く考えさせられます。

2学期も後半に入り、来月には師走となります。日没も日増しに早くなってまいりました。保護者、地域の皆様的一声が生徒の安全・安心につながります。どうか本校生徒に声掛けをお願いいたします。